

スポーツ・武術のグローバル化連続講演会

スポーツを通じた 平和構築支援



南スーダンの事例

2024年 **11/6** 水 16:20～17:50

Zoom開催 (Zoom情報は、ユニバーサルバスポート掲示板に掲載)

今世紀に入り、国連をはじめとするさまざまな国際機関では、「開発と平和のためのスポーツ (Sport for Development and Peace : SDP)」を模索する動きが活発化しています。それらの支援は、紛争地域での和解と異文化間コミュニケーションを促進するための「平和のためのスポーツ」支援と、「開発のためのスポーツ」支援です。その目的は、基礎教育、公衆衛生、地域社会の安全と社会的結束を強化し、開発途上国の少女、女性、若者、HIV / AIDS 患者、障害者を支援することであり、SDGs (Sustainable Development Goals) の実現とも結びついています。今回は、2011年7月に最も新しい国として独立した南スーダンでのスポーツ支援について、発表者がかかわった「平和のためのスポーツ」支援の過程や効果について概説します。

講師：古川 光明 (獨協大学経済学部・教授)

プロフィール

清水建設株式会社に就職。その後、1989年国際協力事業団 (JICA) 入所。南スーダン事務所長、英国事務所長、タンザニア事務所次長、研究所上席研究員、安全管理部長などの部署を経験。その後、静岡県立大学国際関係学部教授を経て、現職。1997年米国デューク大学大学院公共政策学部修士、2014年一橋大学より博士号 (社会学)。2015年度・第19回「国際開発研究 大来賞」受賞 (古川光明 (2014)「国際援助システムとアフリカポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える」日本評論社)。

主催：静岡県立大学国際関係学部

* 2024年度学部研究推進費 (共同研究者：坂巻静佳・孫暁剛・奈倉京子) の助成を受けて開催

問い合わせ先：奈倉京子 (nagura@u-shizuoka-ken.ac.jp)